

公立学校施設への木材活用について

1. 木材活用の効果と意義

○学習環境の改善効果

- ・快適な室内環境と、落ち着いて学習に向かう雰囲気形成。
- ・冬期の暖房時に室内全体を均質な室温とする温熱効果。
- ・インフルエンザ等の蔓延を抑制する、優れた調湿効果。
- ・建物を環境教育などの教材としての活用。

など

○地域コミュニティの形成

- ・学校づくりを通して、地域の結びつきを強める機会。
- ・地域の活性化、木の文化の継承、自然・景観の保全などを考える機会。

など

○地球環境の保全

- ・地域材の活用による、京都議定書目標達成計画へ貢献。

など

○地場産業の活性化

- ・地域材の活用による、地域経済の活性化や地場産業の振興。

など

※「あたたかみとうるおいのある木の学校 早わかり木の学校」(平成19年12月21日 文部科学省)より作成

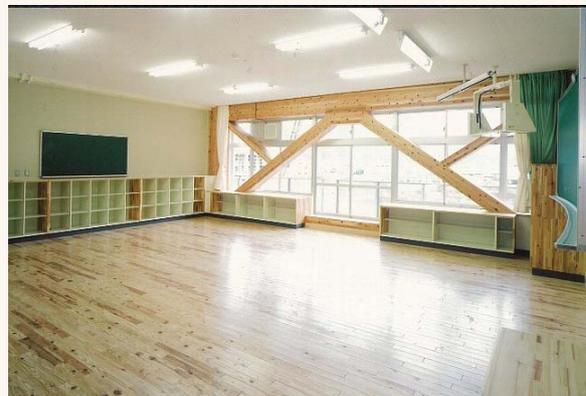
2. 木材を活用した整備の事例

【木造校舎の事例】



木造校舎での授業風景
(石川県羽咋市立瑞穂小学校)

【内装木質化の事例】



耐震化を行うとともに、内装木質化を図り、
耐震ブレスの圧迫感を低減した事例
(兵庫県朝来市立枚田小学校)

3. 木材活用の補助制度

文部科学省では、学校設置者である地方公共団体に対して、①学校施設の**新築、増築、改築**に当たっては、木造による整備について検討すること、②建物の規模等の理由から鉄筋コンクリート造等により整備する場合や、既存建物の改修時においても積極的に内装を木質化することを要請している。

《木造建物を建設する場合》

○不足する学校建物を新しく建設する場合。

→ **新增築事業**: 補助率 1/2(原則)

5.5/10(離島地域、過疎地域(学校統合事業のみ))

交付税措置により、実質的な地方負担は事業費の20%(離島地域は18%)

○構造上危険な状態にある学校建物を建て直す場合。

→ **改築事業**: 交付金の算定割合 1/3(原則)

1/2(Is0.3未満建物のうち、やむを得ない理由により補強が困難なものの改築※)

5.5/10(離島、過疎地域等)

交付税措置により、実質的な地方負担は事業費の26.7%

(やむを得ない改築の場合は20%、離島、過疎地域は18%)

※地震防災対策特別措置法 第4条の規定による補助率の嵩上げ措置

○学校行事や地域住民の活動拠点として、専用講堂を整備する場合。

→ **木の教育環境施設の整備事業**: 交付金の算定割合 1/3(原則)

注:木造建物を建設する場合、木材の調達や乾燥に相当の期間を要する可能性があることから、規模の小さいものや低層のものでも2カ年の事業として採択することにより、工事期間を確保。

《内装を木質化する場合》

- ・新增築事業、改築事業は、非木造建物における内装木質化も補助対象。
- ・以下の事業において、建物の改修における内装木質化も補助対象。

○建物の耐震補強と併せて、内装を木質化する場合。

→ **地震補強事業**: 交付金の算定割合 2/3(Is0.3未満の場合)※

1/2(Is0.3以上の場合)

交付税措置により、地方の実質的負担は事業費の13.3%(Is0.3未満)又は31.25%(Is0.3以上)

※地震防災対策特別措置法 第4条の規定による補助率の嵩上げ措置

○建物全体の模様替え等を行う際、内装を木質化する場合。

→ **大規模改造事業**: 交付金の算定割合 1/3(原則)

○教室、廊下、余裕教室等を改造し、木のふれあいの場※を整備する場合。

→ **木の教育環境施設の整備事業**: 交付金の算定割合 1/3(原則)

※内装に木材を活用した和室、プレイルーム、読書スペース、ランチルーム等

- ★①木造建物の建設、内装の木質化を行う場合、環境を考慮した学校施設(エコスクール)として認定し、補助単価の加算措置を行う。
- ②地域材を活用して、木造建物を建設する場合、①に加え、さらに補助単価の加算措置を行う。

4. 木材活用における設置者の考える課題

- 防火上の制限への対応。
- 一般的に耐用年数が鉄筋コンクリート造より短い。
- 腐朽やシロアリ対策等のため、維持管理に手間がかかる。
- 木材の伐採時期、乾燥期間の確保。
- 計画、設計内容により建設費が割り増しになる場合がある。

※「平成20年度木材を活用した学校施設づくり講習会」受講者アンケート結果より抜粋

5. 木材活用推進の手引き

このような疑問に答えます

- 計画の進め方が判らない。
 - 木材確保の方法は？
 - コストがかかるのでは？
など
- 地域住民などを交えた検討会の設置など具体的な事例があります。
 - 木材関係者や設計者などと連携した協力体制などについて具体的な事例があります。
 - 適材適所の考え方など、設計者の工夫によりRC造と同等のコストとなる事例があります。
など

学校施設への木材活用の課題解決
や留意点を平易に解説。



手引書「あたたかみとうるおいのある木の学校
早わかり木の学校」
(平成19年12月21日 文部科学省)

木材を活用して整備された学校事例を紹介



事例集「あたたかみとうるおいのある木の学校」
(平成10年4月20日、平成16年4月30日
文部科学省)